



平成 29 年 11 月 8 日

各位

上場会社名 三菱商事株式会社
代表者名 代表取締役社長 垣内 威彦
コード番号 8058
本店所在地 東京都千代田区丸の内
2 丁目 3 番 1 号
問合せ先 広報部 報道チームリーダー
吉田 達矢(03-3210-2007)

**当社子会社(中央化学株式会社)の
特別損失の計上および業績予想の修正に関するお知らせ**

当社の連結子会社である中央化学株式会社が、特別損失の計上を行うとともに、平成 29 年 5 月 10 日に公表した平成 30 年 3 月期(平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日)の業績予想を修正いたしましたので、お知らせいたします。

尚、これによる当社の平成 30 年 3 月期個別業績及び連結業績への影響は軽微です。

(添付)

- ・ 中央化学株式会社の開示資料

以上



平成29年11月8日

各位

会社名 中央化学株式会社
 代表者名 代表取締役社長 社長執行役員 水野 和也
 (コード番号 7895)
 問合せ先 ビジネス・デベロップメント 高濱 吉晃
 役職 氏名 &プランニング本部 経営企画部長
 電 話 048-540-2820

特別損失の計上および業績予想(連結・個別)の修正に関するお知らせ

当社は、平成30年3月期第2四半期において、特別損失の計上を行うとともに、最近の業績動向を踏まえ、平成29年5月10日に公表しました業績予想を下記の通り修正しましたので、お知らせいたします。

記

1. 特別損失(固定資産の減損損失)の計上について

「固定資産の減損に係る会計基準」に基づき、当社が保有する工場の一部の固定資産について将来の回収可能性を検討した結果、連結および個別ともに約8億円の減損損失を計上する見込みです。

2. 業績予想の修正について

(1) 平成30年3月期第2四半期累計期間連結業績予想数値の修正(平成29年4月1日~平成29年9月30日)

(単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する 四半期純利益	1株当たり四半期純利益
					円 銭
前回予想(A)	32,000	200	100	0	0.00
今回修正(B)	29,213	△956	△927	△1,810	△89.85
増減額(B-A)	△2,787	△1,156	△1,027	△1,810	△89.85
増減率	△8.7%	—	—	—	—
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成29年3月期第2四半期)	29,249	152	△354	△425	△21.12

(2) 平成30年3月期通期連結業績予想数値の修正(平成29年4月1日~平成30年3月31日)

(単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する 当期純利益	1株当たり当期純利益
					円 銭
前回予想(A)	65,000	900	700	400	19.85
今回修正(B)	59,000	△1,100	△1,400	△2,400	△119.11
増減額(B-A)	△6,000	△2,000	△2,100	△2,800	△138.96
増減率	△9.2%	—	—	—	—
(ご参考)前期実績 (平成29年3月期)	58,240	290	△179	△537	△26.66

(3) 平成30年3月期第2四半期累計期間個別業績予想数値の修正(平成29年4月1日～平成29年9月30日)

(単位:百万円)

	売上高	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
				円 銭
前回予想(A)	28,000	100	0	0.00
今回修正(B)	25,485	△1,043	△1,878	△93.24
増減額(B-A)	△2,515	△1,143	△1,878	△93.24
増減率	△9.0%	—	—	—
(ご参考)前期第2四半期末績 (平成29年3月期第2四半期)	26,302	△106	△164	△8.18

(4) 平成30年3月期通期個別業績予想数値の修正(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

(単位:百万円)

	売上高	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
前回予想(A)	57,000	700	400	19.85
今回修正(B)	51,000	△1,400	△2,400	△119.11
増減額(B-A)	△6,000	△2,100	△2,800	△138.96
増減率	△10.5%	—	—	—
(ご参考)前期実績 (平成29年3月期)	51,987	△141	△464	△23.07

3. 修正の理由

1) 連結業績

食品包装容器市場と極めて関連性の深い一般消費財市場においては、依然として消費者の節約志向・低価格志向傾向はみられるもの、雇用環境の改善等に支えられ民間最終消費支出はプラス基調を鮮明にしております。このような環境下、当社においては、消費期限を延ばし食品廃棄・ロスの削減に貢献するロングライフ容器や超耐熱・高断熱・耐寒等の機能をもつ機能性素材容器等の高付加価値製品の開発・生産・販売促進を進めております。

当第2四半期については、売上高については、夏場の天候不順による個人消費の不振等による汎用製品を中心とした販売数量減少により前回予想を約28億円下回る見通しです。営業利益については売上高減少に加えて原料価格上昇の価格転嫁や生産性向上の遅れ等により約12億円、経常利益については為替差益の影響もあり約10億円下回る見通しです。また、当期純利益については減損による特別損失等により前回予想を18億円下回る見通しです。

また、当期の通期予想数値については、販売数量減少の傾向は継続するものの、原料価格上昇の価格転嫁による利益率改善を見込んでおり、売上高については約60億円、営業利益については約20億円、経常利益は約21億円、当期純利益は28億円、前回予想を下回る見通しです。

2) 個別業績

当第2四半期については、上記連結業績と同様の理由で、個別売上高については前回予想を約25億円、経常利益は約11億円、当期純利益は約19億円下回る見通しです。

また、当期の通期予想数値についても、連結業績と同様の理由で、個別売上高については前回予想を約60億円、経常利益は約21億円、当期純利益は約28億円下回る見通しです。

(注) 上記の予想は、発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績等は、今後様々な要因によって上記の予想とは異なる結果となる可能性があります。

以 上